

登録コード	E2913400	開講年度	2026				
授業科目	英語文学特殊演習					担当教員	金子 史彦
英文授業名	Advanced Seminar in English Literature 1					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・6時限	対象学生	2～4年生
講義室	教育N 2 2 9		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー 非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				・英語文学を学ぶことにより、教員としての公共的使命感や倫理観を身に付ける。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				・英語文学を理論的・多面的に理解できるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	同一の作品を異なった様々な文芸批評理論に従って解釈した実例を学ぶ。各回一つずつ理論を取り上げ、解説していく。そして文学作品に留まらず、世の中の出来事にもそういった文学的な読みが適用できるということも紹介していく。						
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス，文学を解釈するとは 第 2 回：批評理論とは 第 3 回：読むことの哲学 第 4 回：精神分析批評 第 5 回：マルクス主義批評 第 6 回：新批評 第 7 回：読者反応論 第 8 回：構造主義 第 9 回：ポスト構造主義 第10回：新歴史主義 第11回：クイア理論 第12回：ポストコロニアル批評 第13回：フェミニズム批評 第14回：理論の運用の実践 最後の 1 5 分間で授業アンケートを実施する 教育実習による欠席分については補講を行う。						
(6)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次の通りである。 ・文学を理論的に読めるようになったかを測る期末レポート。 100% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	・期末レポート - (i)テーマ選びが適切であり、(ii)そのテーマを選んだ理由がよく説明できており、(iii)内容がよく分析されており、(iv)自分の意見がはっきり述べられており、(v)その上で全体が上手くまとめられており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	事前に配布したプリントを指示通りに予習する。 この授業は2単位のため、60時間以上の授業時間外学習を必要とします。						
(9)履修上の注意	対面授業。 英語文学を深く研究したい学生を対象とした授業である。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	N229, 内線4193, E-Mail: kanekof@shinshu-u.ac.jp, オフィスアワー火曜日 2 限、及び金曜日 2 限、その他予約で対応						
【教科書】	適宜プリントを配布						
【参考文献】	Lois Tyson著Critical Theory Today Garland Publishing						